

**「第3回酒田沿岸域検討部会（令和5年1月24日）」における
主な意見・質問と対応の方向性**

項目	意見・質問（要旨）	対応の方向性 （会議での回答含む）
想定海域関係	<ul style="list-style-type: none"> 想定海域は、山形県漁業協同組合と我々漁業者との検討の上で提示したが、今後、想定海域の議論には、我々、現場の漁業者と十分なすり合わせの上で進めていただきたい。 【県漁協・田代委員】 	⇒ 山形県漁業協同組合から提示いただいた想定海域(案)について、漁業者や関係者の皆様と情報共有しながら、一緒に研究・検討を進めていきたい。 【事務局】
	<ul style="list-style-type: none"> 酒田沖の共同漁業権内を想定海域として提示した。しかし、今後、環境等が変われば獲れる魚も変わってくる。その時は、漁法や漁をする場所も変わるので、これからも組合員からいろいろな意見等を聞きながら、考えていきたい。 【北部小型組合・長谷川委員】 	
	<ul style="list-style-type: none"> 遊佐の月光川水系とは違い、最上川の水系には、内水面漁協がふ化場を経営しているという特殊な事情もあることをご承知おきいただきたい。 今後、話が進めば、漁業影響評価調査や協調策など、海面と内水面が一体になって考えていかなければならない。想定海域に関しては、今のところ否定的な意見はないが、設置場所を考えるにあたっては、建設してほしくない場所は出てくるので、その後の議論にお任せする。 【県内水連・桂委員】 	
	<ul style="list-style-type: none"> 想定海域の件について、沖合に出すほど利害関係者は増える。共同漁業権とは、山形県漁協が許可を受けた場所で、利害関係者が特定できる。その上で、遊佐町も想定海域は共同漁業権のところまで区切った。また、沖合で漁業を行う人は陸上と違い、線引きすることはできない。風や潮で沖に流されたり、逆に入ったりもする。そうすると、トラブルの元になるので、沖合に干渉地を設けた。沿岸部についても波打ち際まで漁業はある。ただし、遊佐町の場合は国定公園の関係で岸から1,000mは利用できない。そのうえで、想定海域は、岸から1,000mのところから沖合の共同漁業権の中となっているが、岸から1,000mのところから風車が立つのかということ、そういうことではない。想定海域は広く取り、その中で漁業にあまり負荷のかからない場所、負荷がかからないようなレイアウトとなるように議論しようということで、我々は検討を進めてきた。酒田のことについては酒田の漁業者の意見を尊重すると言っているのので、遊佐町のこれまでの経緯だけお話する。 【県漁協・伊原委員】 	⇒ 遊佐町沖における検討経過を踏まえた上で、酒田市沖の想定海域については、酒田市沖を利用する漁業者や地域の皆様と一緒に検討を進めていきたい。【事務局】

項目	意見・質問（要旨）	対応の方向性 （会議での回答含む）
想定海域関係	<ul style="list-style-type: none"> 資料4の再エネ海域利用法のプロセスについて、4ページ第1号に自然条件と出力量について、「気象、海象その他の自然的条件が適当であり」及び「発電設備の出力の量が相当程度に達する」とあるが、適当及び相当程度については具体的数値が必要である。 【酒田市環境審議会・大井委員】 	⇒ 出力の相当程度とは事業が実施できるかどうかという観点によるものであり、具体的な数値基準を設けている訳ではない。ただし、他区域の公募では、例えば30万kW程度というように規模感があるので、それが一つの目安になる。（当日回答）【資源エネルギー庁】
進め方関係	<ul style="list-style-type: none"> 内水面だけでなく海の魚についても、日本海側全体に関わる話だが、少なくとも県内でこの2つの話が進んでいるのであれば、遊佐と酒田、この二つの海域を一体として考えていけるような体制を作っていただきたい。 【県内水連・桂委員】 	⇒ 遊佐町沖と酒田市沖、双方の海域の情報を共有しながら検討を進めていきたい。【事務局】
	<ul style="list-style-type: none"> 1月16日号の朝日新聞に秋田県で日本初の大規模な洋上風力発電稼働という記事があり、なぜ山形県は1年も2年も遅れるのかと、少しがっかりした。新聞にも記載があるが、国内の風力発電の普及率はまだ0.9%と書いてある。我々は、カーボンニュートラル、SDGsの観点でも活動しているが、風力発電を日本中どんどん増やしていけば、これらのためにもなるのではないかと。我々は、次の代を担う子供たちの幸せのために頑張っていきたいと思っているし、素晴らしい計画だと思うので、ぜひ早く作っていただきたい。 【自治会連合会・阿部委員】 宮野浦地域には現在、風力発電が3基あり、風車の回っている音が私の家には常に聞こえてくる。回り方が激しいと、ボンボンという音が聞こえる。自治会連合会の阿部委員から話があったように、エネルギーを生む方法は様々あるが、カーボンニュートラルを考えると自然エネルギーに特化した発電が非常に良いと思っている。今日で3回目の部会となるが、今は地域における案件形成という段階であり、早く有望な区域にしなければならぬ。有望な区域になっても議論を止めることはできるとい話があったので、そちらの場で漁業者や地域住民が、環境や漁業権の問題等、いろんな意見を出し合い、前に進めてほしい。 【宮野浦コミュニティ振興会・阿部委員】 	⇒ 関係者の理解をいただきながら、酒田市との連携のもと、想定海域（案）を含めた国への情報提供を念頭に調整を進めていく。（当日回答）【事務局】

項目	意見・質問（要旨）	対応の方向性 （会議での回答含む）
進め方関係	<ul style="list-style-type: none"> 今後の進め方について、きちんとした検証や、有識者を交えて住民の不安、環境、健康、漁業等について議論できる場所、スタートラインとなるのが法定協議会という場ではないか。そのため、まずはそこまでギアを上げないといけない。ここからはスピード感が非常に大事だと感じる。山形県、酒田市、そして委員会メンバー、地域住民も、今はひとつになり、集中してそこまで進まなければならない。一番怖いのは、このままのペースでやりながら、イメージや中途半端な知識だけで酒田市の世論が形成されてしまうこと。まずは法定協議会までステップアップし、国からのアドバイスをいただきながら、きちんとした専門家あるいは能代や村上胎内の先行事例を参考に、いろんなことが議論されるべき。 【商工会議所・矢野委員】 	⇒ 関係者の理解をいただきながら、酒田市との連携のもと、想定海域（案）を含めた国への情報提供を念頭に調整を進めていく。（当日回答）【事務局】（再掲）
	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市沖洋上風力発電は、かなり大きな事業規模となると想定される。県漁協から出された案は、利害関係者がはっきりしており、事業を展開していく上で重要なことだと思うので、まずはこの案をベースに進めてもらうことに賛成である。港湾の振興・発展という意味でもチャンスといえる時期に来ている。これは時期をとらえておかないと、次に繋がる産業振興にも繋がっていかない。そのため、委員の皆さんが賛成しているのであれば、進めていくべきと考えている。 【酒田市商工港湾課・堀賀委員】 	
	<ul style="list-style-type: none"> 今後の進め方について、委員から都道府県として国へ情報提供していくことを念頭に置いた意見があった。再エネ海域利用法においては、一定の準備段階に進んでいる区域と有望な区域というプロセスがあるが、酒田市沖は最初から有望な区域となることも制度上は可能である。 【日本風力発電協会・斉藤委員】 	
	<ul style="list-style-type: none"> 去年から今年にかけて電気料金が1.5倍くらいにアップし、電気料金が安くないかと思っている。漁業者が反対している中で、我々が、電気料金が低いから洋上風力を作ってほしいと言う訳にもいかないのが心配したが、漁業者は、概ね事務局の提示した想定海域（案）について前向きに検討するようである。エネルギーのない日本としては、非常に電気代が上がっているの、どんどん計画を進めて電気料金が下がるような方策をとっていただきたい。 【十坂コミュニティ振興会・佐藤委員】 	⇒ 今後、検討を進める上での参考とし、洋上風力発電と漁業・地域との共存を目指し、部会委員の皆様の見解を伺いながら、しっかりと取り組んでいきたい。 【事務局】

項目	意見・質問（要旨）	対応の方向性 （会議での回答含む）
進め方関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業協調、漁業振興方策を十分に配慮した”漁業協調型ウィンドファーム”の全国のモデルケースとなるよう期待している。具体的内容については、漁業者の提案をベースにするのが適当と考える。 ・ 酒田港に立地する水素の利用企業を念頭に、酒田沖ウィンドファームは、風力発電と、得られた電力を活用した洋上水素製造のハイブリッド・システムを積極的に推進するようアピールしていくことが肝要である。これは、他地域との差別化の上でも非常に重要で意義深い取組みと言える。欧州でも同様のハイブリッド型ウィンドファームのプロジェクトが取り組まれているので、酒田市沖が漁業協調型だけでなく、この風力+水素ハイブリッドプロジェクトとしても、我が国における先駆けとなることを大いに期待する。 【海洋産業研究・振興協会・中原委員】 	⇒ 今後、検討を進める上での参考とし、洋上風力発電と漁業・地域との共存を目指し、部会委員の皆様の見解を伺いながら、しっかりと取り組んでいきたい。 【事務局】（再掲）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酒田地区において酒田港という重要な港を今後どのように活用していくかも重要である。利用用途として水素というキーワードがあったが、水素は新たなエネルギーとしても国内で成長しうる。エネルギーを全体的に見ても、水素は将来的には比較的安価にできる可能性があるという点でも、海外の事例ではそういう方向にシフトしている状況が顕在化している。今後、発電以外の水素利用についても十分念頭に置いて議論をしていただくとよい。 【日本風力発電協会・斉藤委員】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋上風力発電事業は、将来的に事業者の目線も必要である。その目線からすると、NEDOのセントラル方式実証事業について、この想定海域の規模としては事業者が建設や事業性を判断するには調査（風況調査、地盤調査）の数が少ない。今回追加でやるか、次の実証事業または国の事前調査として、事業者が参考になるような調査を実施していただきたい。 ・ 2011年度に県エネルギー戦略を作ったことを考えると、隣県に遅れてしまったことは残念だが、その分、それなりに時間をかけて地元のこと考えてきたのではないかと。酒田部会は本日3回目だが、部会からの段階からいろんな話があったのだと思う。そういう意味では、丁寧に進めてきているのではないかと。本日の議論を聞き、この案をベースに話が進んでいくという印象を持った。整理が進むことを期待している。 【県エネルギー対策総合アドバイザー・山家委員】 	